

ただし、短7度からオクターヴへの斜行は、順次進行が前後に続く場合、許容される。

長7度からオクターヴへの斜行は、順次進行があっても避けることがのぞましい。

以下の例は避けること。

(a) 刺繍音

下例1の並行完全8度は可能である。

下例2のように、同じ拍内でも、弱拍で打たれる増1度の対斜は可能である。